

平成 27 年 4 月

語り部：松友 順三

第二次世界大戦が終わって今年でちょうど 70 年。70 年前は松山だけでなく全国各地で空襲があった。戦争開始当初、アメリカの B 2 9 は戦争に使う機械をつくるための軍需工場ばかりを狙って爆撃していた。アメリカもどうにかして日本に勝とうと作ったのが焼夷弾である。焼夷弾の重さは 6 ポンド、約 3 キロある。B 2 9 に焼夷弾を積み、約 300 もの中小都市に無差別に投下した。松山も同様に爆撃を受けた。

人を殺すために投下された原子爆弾は、世界で広島と長崎の 2 ヶ所しかない。今現在、世界には何万発もの原子爆弾が存在している。人を殺す目的でこれらが投下されれば、地球上に人は居なくなってしまう。今は、核不拡散条約によって使わないようにしている。当時原爆投下の候補には、新潟・小倉・長崎・広島など数カ所が選ばれていた。広島が選ばれた理由は、都市の大きさや山に囲まれた地形が、原爆の破壊力を探るのに適していたためとも言われている。また、長崎が選ばれた理由は、はじめは小倉に投下予定だったが天候が悪かったために長崎に変更されたと言われている。被災して 5～6 年後に長崎に行ってみた。放射能によって 50 年間草や木が生えないと言われていたが、今では立派に復興している。広島では原爆 1 発で 10 数万人が亡くなった。松山からも原爆のきのこ雲が見えたという。

みなさんは佐々木貞子さんの話を聞いたことがあるだろうか。貞子さんは 2 歳の時に被爆した。非常に元気な方だったそうである。小学 6 年生の時に、急に体調が悪化し、白血病となった。原爆の放射能により、10 年経過してから発症した。病院で治療を受けていたが、鶴を千羽折れば治ると聞き、一生懸命鶴を折ったらしい。しかし、入院してから 8 か月で亡くなった。貞子さんの冥福を祈るために今でも千羽鶴が平和記念公園に送られている。

私は昭和 6 年生まれで、現在 84 歳である。今から 70 年前の終戦がつい最近のように感じる。私が生まれた昭和 6 年に満州事変が起こった。小学校に入学する前年の昭和 12 年に日中戦争が始まった。小学 4 年生のときに大東亜戦争、太平洋戦争が始まった。中学 2 年生のときに終戦を迎えた。私は生まれてからずっと戦争状態の中で育った。当時のことは今でも身体に染みついている。

戦争が起こった原因はいろいろと説があるが、戦争は絶対にやってはいけない。戦争に良いも悪いもない。当時は軍国主義で、戦争に負けないと教育を受けていた。

今の暮らしがうらやましい。衣食住全て満たされている。満たされていない時代があった、そういうことを次の世代の人たちに伝えてほしい。

先日、天皇皇后両陛下がマリアナ諸島にお参りに行かれたこともニュースになっていた。昭和16年12月8日にハワイの真珠湾で戦争が始まった。初めは日本の勝ち戦だった。昭和17年のミッドウェー海戦を機に攻勢が変わった。それから日本は負け戦となっていった。北海道を除く日本のほとんどの都市が空襲を受けるようになった。一番大きい空襲は、昭和20年3月15日の東京大空襲で、一晩で約15万人もの人が亡くなった。

(昭和20年7月26日の松山大空襲の話)

夜11時頃に空襲が始まった。それまでに空襲ビラを落とされた。ビラには、「日本は戦争に負けている。早く降参しなさい。もし、続けるのであれば、あなたの街を焼きます。」といった内容が予告された。実際、その後空襲を受けた。学校の先生より拾った者は持ってくるよう言われた。

まず、警戒警報が鳴るが、実際に敵が来ると、空襲警報が鳴った。当時は、どの家も防空壕を掘っていた。いつでも動けるように寝る時も普段着のまま寝ていた。敵の戦闘機のB29はサイパンからやって来た。

まず、はじめに焼夷弾を落とされたのが、味酒校区と清水校区の境だった。それから時計回りに旋回しはじめ、どんどん焼夷弾を落とされ、火が付いた。アメリカの発表では、B29が128機来たと言われている。日本の発表では60機とあった。日本では、被害はできるだけ小さく報道された。死亡者251名、行方不明者8名、負傷者約800名と伝えられたが、実際は400～500人、もっと多くの方が亡くなっている。

(焼夷弾の説明)

六角形で重さが3キロある。36本が束ねられて落とされた。焼夷弾の中にはゼリー状の油脂が入っている。その油脂はとても臭かった。落ちると信管がはじけて、油脂が出てくる。油脂に火が付くと、火の海となる。水の中でも燃えた。アメリカは日本の木造家屋を焼き尽くすために焼夷弾を使った。当時、鉄筋の建物はほとんどなかった。松山に900トンもの焼夷弾を落とされたと言われている。上から焼夷弾を落とされ、直撃すれば即死だった。当時の松山の人口は約12万人で、そのうち53パーセントの62,000人が災した。家は26,000戸あり、そのうち14,000戸が焼けてしまった。私の家も焼けた。街には何も残らず、瓦礫の山となった。北は吉藤、南は森松や東温の方角へ逃げた。

松山だけでなく、全国200以上の都市が空襲を受けた。四国で1番被害が大きかったのは高松だ。愛媛県内で1番被害が大きかったのは今治だった。県内では、ほかにも新居浜、西条、宇和島が空襲を受けた。機銃掃射を受けたところもあった。東日本大震災のときは、全国から救援物資が届いたが、当時は全国が空襲にあったので、助け合うことができなかった。かぼちゃ、じゃがいも、さつま

いもなどを食べながらしのいでいた。大阪の方から疎開にきている人たちもいた。

当時は「欲しがりません、勝つまでは」という精神で「滅私奉公」といい、自分のことを犠牲にし、全体のために尽くすようにと、小学生の時から徹底的に教え込まれていた。学校も男女別だった。学校の朝礼で、クラスの父の戦死を知らせたこともあった。多くの父が戦地に行っていた。今とは授業も違う。音楽の授業で習うのは、戦闘機の音の違いだった。食べ物も違う。砂糖がないため虫歯になる人もいなかった。

戦争が一度始まってしまうと誰にも止められなくなってしまう。絶対にはじめてはならない。当時の日本の人口は約1億人。戦争で300万人が亡くなった。そのうち200万人が兵隊で、20歳になれば、男子は兵隊に行かなければならなかった。残りの100万人が一般人だった。

尊い犠牲の上に、今日まで70年間日本は平和である。世界では紛争などが起きている。平和であることはとてもありがたいことである。戦争が1度始まると、ブレーキのない自動車のように、止まらなくなる。終戦当日に空襲を受けた都市もあった。食べ物が無く餓死した人もいた。空襲で焼けた中で一番うれしかったことは城山の天守閣が残っていたことである。

みなさんが当時の体験をするのはできないので、私たちのような人から話を聞くしかない。自然に今のような平和な時代が来たのではない。世界中が平和で、話し合いで解決できるようにし、戦争にならないようにしてもらいたい。みなさんも友達とケンカやいじめをせず、仲良くしてもらいたい。今日の話を中心に留めてもらい、後世に語り継いでもらい、みなさんが語り部となってもらいたい。家に帰っても、家族と話してもらいたい。